所属・氏名（健康スポーツ学部　健康スポーツ学科　氏名：菅　輝）

	著書、学術論文等の名称	単著共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
1	（学術論文） Volitional hyperventilation during ramp exercise to exhaustion.	共著	2006 年 4 月	Applied Physiology, Nutrition, and Metabolism Vol. 31, pp. 211-217, 2006.	随意過呼吸状態が疲労困憊に至るランプ負荷運動に与える影響について研究を行った。その結果，胚胞機能における変化は運動強度に依存していることを示したが，高い呼吸数を産む可能性が増大したにもかかわらず，過呼吸時の呼吸筋の作業量が増大した時の運動パフォーマンスは減少する。呼吸筋作業量と疲労の間には,強い相関が示された。 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。 （Michael L. Walsh, Chiyo Takeda, Aya Takahashi, Yuri Ikeda, Masako Endo, Akira Miura, Akira Kan, Yoshiyuki Fukuba）
2	（学術論文） サッカーゲームにおける攻撃パフォーマンスの数量化	共著	2007 年 3 月	スポーツ方法学研究, 第 20 巻，第 1 号， pp. 1-14.日本スポーツ方法学会	本研究は，サッカーゲームの攻撃局面におけるシュートに結びつく攻撃の要因を数量的に評価・検討した。分析方法としてDLT法を用い，日本代表対UAE代表の 1 試合における亮チームのすべての攻撃場面をゲームパフォーマンス測定項目により測定した。因子分析の結果，本研究で用いたゲームパフォーマンス測定項目は信頼性と妥当性を満たした。検証的因子分析から算出された因子徳点を用い判別分析とクラスター分析で成功場面と失敗場面を比較・検討することにより成功の要因が明らかとなった。検証的因子分析から算出された因子徳点を用い，パス解析で攻撃パフォーマンス巻の因果関係を検討することで，シュートに結びつく攻撃パタンが具体的に示された。以上より本研究の分析手法の戦術評価における有用性が示された。 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。（大江淳悟，磨井祥夫，沖原謙，塩川満久，菅輝，梶山俊仁，黒川隆志）
3	（学術論文） バスケットボールにおける集団戦術行動の分析に関する研究：攻撃の成否とエリア面積の関係	共著	2007 年 12 月	スポーツ方法学研究，第 21 巻，第 1 号，pp.47-50. 日本スポーツ方法学会	バスケットボールゲームにおける選手が構成するチームのエリア面積に着目して,攻撃の成否の検討を目的とした。200X 年のＷリーグファイナル腺を対象とし，DLT 法を用いてゲームを撮影し,三次元の座標データ化した。その結果，両チームの攻撃時，守備時のエリア面積について，シュートの成否に応じて相関を見た結果，有意な層間関係が認められ，シュートの成功時には守備チームが組織的に防御できていないことが示唆された。 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。 （大場渉，塩川満久，菅輝）